

一言メモ

(茨城県、土浦市役所、阿見町・美浦村ホームページより引用)

水郷筑波国定公園:本県と千葉県とにまたがる霞ヶ浦利根川等のいわゆる「水郷」の一带と筑波山、加波山などの山塊が公園区域となっています。水郷は利根川と我国第2位の淡水湖の霞ヶ浦、与田浦、北浦の湖沼群の作る水景で明るい水平な風景を成しています。湖の周囲には、東国三社の鹿島神宮、香取神宮、息栖神社と浮島、歩崎、天王崎の景勝地、アヤマで知られる潮来、水郷の典型「十二橋」があり、水性植物、水鳥の遊ぶ姿とあいまって、親しみやすい水郷景観を形成しています。霞ヶ浦の北西に位置する筑波山と加波山、足尾山の山塊は、標高は低いが関東平野から急にそびえているため気温差がはげしく植物の種類が豊富なことと共に垂直分布がはっきりと観察され自然観察の教室として大いに利用されています。この地域は筑波山神社、加波山神社、東城寺、西光院、伝正寺、楽法寺等の神社仏閣が多く、筑波山頂へはケーブルカー、ロープウェイ、スカイライン、登山道を通じ山頂からの眺望がすばらしく関東平野が一望にできます。

霞ヶ浦総合公園:スポーツ施設、自然観察施設、日帰り入浴施設、レストハウスなどを総合的に整備した霞ヶ浦湖畔に位置する46haの公園です。公園内のシンボルとなっているオランダ風車からの眺望は素晴らしく、目の前には霞ヶ浦が広がり、また、筑波山を背景に、広大な公園を見渡せます。春には、ソメイヨシノや枝垂れ桜、チューリップなどを楽しむ事ができ、多くの人々が訪れます。



予科練平和記念館:東洋一の航空基地といわれた霞ヶ浦航空隊が設置され、「海軍航空の町」として名を馳せた阿見町。昭和14年には神奈川県横須賀市から海軍飛行予科練習部(予科練)が移転、予科練習教育の最重要拠点となりました。空に憧れ、パイロットになりたいという夢を胸に、予科練で青春時代の全てを厳しい訓練に費やした少年たち…。時代に翻弄された彼らの貴重な資料を保存・展示するとともに命と平和の尊さを考えてもらうために設立されました。記念館は、予科練の制服である「七つぼたん」をモチーフに7つのテーマと空間から構成された常設展示館と、企画展や講演会が開かれる「20世紀ホール」などから構成されています。建物の1/4が窓になっており、館内から予科練習生たちが憧れた空をよく見られる素晴らしい造りになっています。



木原城址城山公園:霞ヶ浦南岸にあり、村民から「城山」と呼ばれ親しまれてきた歴史遺産です。この城址の特徴は、三曲輪、二曲輪、詰曲輪(本丸)と行くに従って、標高が低くなる点です。北側は霞ヶ浦に連なる湿地帯や池となり、南側には堀や土塁などが配され、厳重な防衛線となっています。いつ、誰が築いたか定かではありませんが、一説には戦国時代末期、江戸崎城主・土岐氏の家来、近藤氏の築城と伝えられています。チューリップの名所で、11種類約5万本の見頃は4月中旬頃。

